データで読む水の文化　水にかかわる生活意識調査から

当センターでは、毎年６月に「水にかかわる生活意識調査」を東京、名古屋、大阪の約600名を対象に実施し、７月にその結果を公表しています。これまでの９年間の調査結果はセンターホームページでご覧いただくことができますが、このコーナーでは最新の調査結果を選んでご紹介します。

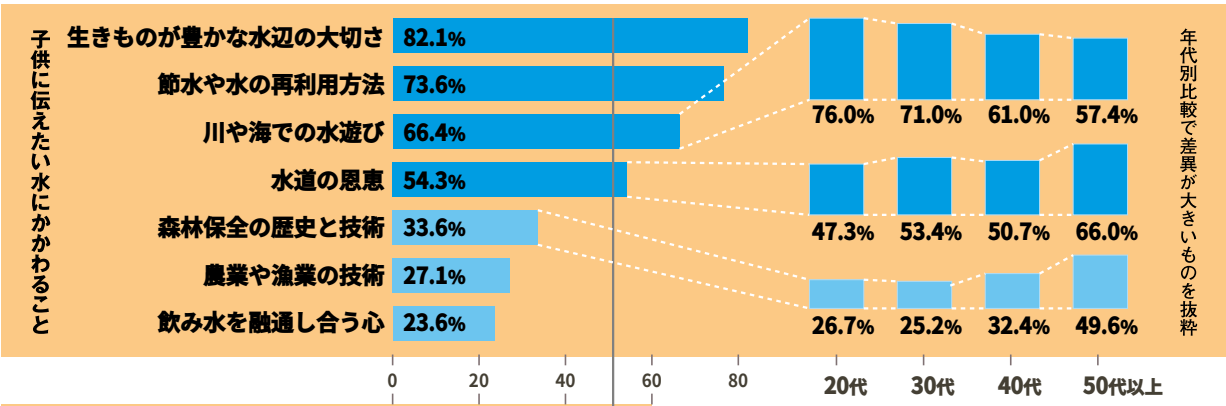
現代人が水辺に抱く心象風景－子供たちに向け守るべきものとは

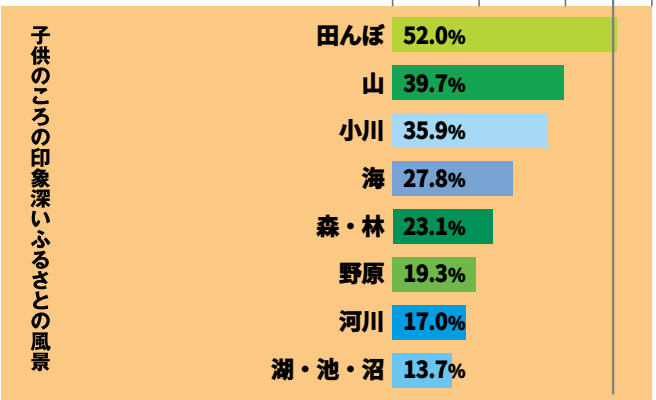
現代人は、水のどの側面を重視しているのか？　里川を考える上で大事なことです。生活意識調査では、「子供に伝えたい水に関する事柄」を10の選択肢（複数回答）で尋ねています。この結果は、解釈によってはなかなか興味深いものです。

回答のトップは『生きものが豊かな水辺の大切さ』、以下『節水や水の再利用方法』、『川や海での水遊び』、『水道の恩恵』と続き、それぞれが50%を超えています。

都市部の居住者は、生きものが豊かで、川や海では水遊びができるような環境を守り伝えたいと考えていることがわかります。さらに、節水や水再利用など、水道をも含めた「居住周りの水」も大事と考えています。現代の都市の里人が残したいと思っている「多様な生物がいる水」と「居住の水」という対比が、よく表れているようにも思えます。

『川や海での水遊び』『水道の恩恵』では、20代と50代の間で20%近い差が出ました。しかし、『川や海での水遊び』は20代のほうが大事と答え、『水道の恩恵』は50代のほうが大事と答えており、世代による水や川とのかかわりが異なっています。これは、里川を考える上で大いに興味をそそられる数字です。





「水にかかわる生活意識調査の結果」はホームページで公開しています。

http://www.mizu.gr.jp/kekka/index.html

子供のころの印象深い里の風景は「田んぼ」

それでは、誰もがふるさとと答える心象風景というものがあるのでしょうか。子供のころの印象深いふるさとの風景を、10の選択肢から選んでもらいました（複数回答）。

１位は『田んぼ』、以下『山』、『小川』、『海』などと続きます。しかも、『田んぼ』はあらゆる年代でトップを占めています。現在の暮らしはどうあれ、「田んぼ」は子供のころの印象深い里としてとらえられているのです。

田んぼの何が人の心に強い印象を与えるのかを探ることで、これからの里川の方向が見えてくるかもしれません。

■水の文化16号予告

特集「茶飲み話」（仮）

古今東西、独自のお茶文化が語れるほど
お茶は歴史ある身近な飲み物です。
いろいろな場所、いろいろな言葉で、
ちょっとお茶していかない？
と出会いが生まれたのでしょう。
そんな「お茶コミュニケーション」
の社会史を取り上げます。

水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水との関わり」に焦点を当てた活動や調査・研究などをご紹介してまいります。

ユニークな水の文化楽習活動を行なっている、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究を行なっている、こうした情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はモノクロで皆様に配布しておりますが、写真をはっきり見たい！というご要望にお応えし、11号からはホームページにてカラーでバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

ホームページアドレス　http: //www.mizu.gr.jp/

編集後記

◆年初の企画会議で今回のテーマが決まったとき、これは大変なことに取り組んだものだと少し不安を感じました。しかし、さまざまな識者のお話を伺ううちに、これは水の文化面のみならず将来の国家的課題として捉えるべきだと強く感じました。「里川とコンパクトシティ」は自然や環境、人間と社会が織り成す巧妙な協働作業であり、長期にわたって持続的に取り組むべきテーマです。（宝）

◆買い物やレジャーで車を使うことが多くなった。便利で行動範囲が広がる一方、大事なことを見落としてしまっているのではないかと不安も覚える。わざわざ遠くに行かなくても、近くに本当の豊かさがあるのではないか、とも思う。生活する上で心を癒す大事なもの、近くにありますか？　ただ傍観するだけではなく、積極的に関わっていくことで、面白いことを身近に発見したい。（日）

◆タマちゃんの出現で、期せずして都市河川に注目が集まった。一過性と思いきや、意外にもタマちゃん効果は持続している。やはり、生きものの持つパワーには、強く興味を惹かれるものが潜んでいるということか。里川を考えるとき、目の前にはタマちゃんさえ嫌がる川が存在する現実がある。「里川の空想」とならぬよう地に足をつけた活動にしていきたい。（ゆ）

◆里川は魅力ある言葉だ。この言葉で、川の持続的管理と都市・地域づくりを、コモンズの議論で積み上げ調和させたいものだ。前号のテーマは「盆地都市・京都」だったが、期せずして前号が「里川：空間編」、今号が「里川：人間居住編」になった気がする。両方併せて読んでいただくと、また違った面白さがあるかもしれない。（中）

ミツカン水の文化センター機関誌
水の文化
第15号

ホームページアドレス
http: //www.mizu.gr.jp/

※ 禁無断転載複写

発行日　2003年（平成15年）10月　（第二版　2010年（平成22）2月）

企画協力
嘉田由紀子　京都精華大学教授　琵琶湖博物館研究顧問　水と文化研究会世話役
古賀邦雄　水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信　法政大学教授

編集　吉田 稔　小林 信　日比野容久　小林夕夏　中庭光彦　賀川一枝　賀川督明

発行
ミツカン水の文化センター
〒475 - 8585　愛知県半田市中村町2-6
株式会社ミツカングループ本社 広報室内
Tel. 0569 (24) 5087　Fax. 0569 (24) 6353

お問い合わせ
ミツカン水の文化センター　東京事務局
〒143 - 0016　東京都大田区大森北 2 -2 -10・4F
Tel. 03 (5762) 0244　Fax. 03 (5762) 0246

PRINTED ON RECYCLABLE PAPER.